2015年度入学生の修得単位の目安

○１ 年 生 修 了 時・・・・・・・・ ３８単位
○２ 年 生 修 了 時・・・・・・・・ ８２単位
○３ 年 生 修 了 時・・・・・・・・ １１０単位
○卒 業 単 位 数・・・・・・・・ １２６単位

授 業 科 目 に つ い て

１．学科共通科目群

学科共通科目群は，同Ⅰ（外国語・日本語），同Ⅱ（総合科目群）,同Ⅲ（基礎科目群）の３つの科目群からなる。それらの各系列のうちから所定の単位以上を修得しなければならない。

（１）学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語）

学科共通科目群Ⅰでは、英語によるコミュニケーション能力と日本語文章力の向上をはかる科目群である。第一外国語として英語を学ぶ。うち，Fundamentals of EnglishⅠ、Oral FluencyⅠは必修科目である。

（２）学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）

学科共通科目群Ⅱは，情報、社会、経済、文化に関する問題解決に資する総合的知識について学ぶ科目群である。

（３）学科共通科目群Ⅲ

学科共通科目群Ⅲは、学科の専門領域教育への円滑な導入を図るための情報メディアリテラシー能力の養成と、メディア関連領域の基本的は概念、及び基礎技術を学習する科目を配置している。

２．専門科目群

専門科目群は、ⅠからⅥの６群より構成されている。「クロスメディア」「映像表現」「身体表現」「表象・ビジネス」「サウンド」「演習・プロジェクト」これらの科目群は、それぞれの専門領域に関する専門知識と実践能力の養成を目的とし、加えてそれらを取り巻く社会と文化、及びメディア情報環境への理解を深めることになる。

Ⅰ群はクロスメディアコース、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群は、映像芸術コース、Ⅴ、Ⅵ群は、クロスメディアコースと映像芸術コースの共通科目群である。

（1）専門科目群Ⅰ（クロスメディア）

専門科目群Ⅰは、クロスメディアに関わる科目群である。１年次の「メディア概論」「メディア基礎実習」を通して、多様なメディアに関する基本概念や基礎技術を学んだ後、主として2年次より「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」「広告」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するための科目を配置している。

「情報」分野では、「データベース」「プログラミング」「データ構造とアルゴリズム論」「マルチメディアコンテンツ制作」を配置している。

「映像」分野では、「スタジオ番組Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

「デザイン」分野では、「表現基礎論」「グラフィックデザイン」「イラストレーション」「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」「生活文化デザイン」「パブリッシングデザインⅠ・Ⅱ」を配置している。

「サウンド」分野では、「デジタル音楽表現」「デジタルサウンド」を配置している。

「広告」分野では、「ＣＭ制作論」「広告戦略論」を配置している。

「クロスメディア」を学習する学生は、学科共通科目群Ⅲの「デッサンⅠ・Ⅱ」「Ｗｅｂデザイン」などを併せて履修し、メディアの基礎能力を高めることを推奨する。

上記のように複数のメディア分野の科目が用意されており、学生は自分の将来の進路や志望する職業にあわせて横断的に科目履修を行い、複合的なメディア能力の獲得をめざすことを期待する。

(２)専門科目群Ⅱ（映像表現）

専門科目群Ⅱは、映画やテレビ、Ｗｅｂ映像などの映像コンテンツと映像文化に関わる科目群である。１年次のメディア概論、基礎実習を通して、映像に関する基本概念や基礎技術を学んだ後、２年次より「演出・制作」「映像技術」「映像美術」「アニメーション・ＣＧ」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するために、「シナリオライティング」「映像演出」「番組企画・構成」「映像撮影照明」「デジタル映像編集」「映像録音」「音響効果」「映像美術デザインⅠ・Ⅱ」「アニメーションⅠ・Ⅱ」「ＣＧ映像Ⅰ・Ⅱ」を配置している。映画研究、特殊メイクの分野にも科目を配置している。

（３）専門科目群Ⅲ（身体表現）

専門科目群Ⅲは、身体表現と舞台空間に関わる科目群である。1年次後期より「音声表現ＡⅠ・Ⅱ（ヴォーカル）」「音声表現ＢⅠ・Ⅱ（声優）」「音声表現ＣⅠ・Ⅱ（アナウンス）」「サウンド表現Ⅰ・Ⅱ（演奏）」「身体表現ＡⅠ・Ⅱ（ダンス）」「身体表現ＢⅠ・Ⅱ（アクティング）」の実習を通し、身体表現の基礎能力を養い「演劇制作Ⅰ・Ⅱ」では、舞台空間と演技について、総合的、実践的に学習する。

「舞台空間Ⅰ・Ⅱ」では、舞台音響、舞台照明、舞台美術をはじめとする、舞台表現のスタッフワークについて幅広い知識と専門的技術を学ぶ。舞台芸術に関わる科目として「舞台空間概論」「戯曲研究」「古典芸能研究」「芸能演劇研究Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

（４）専門科目群Ⅳ（表象・ビジネス）

専門科目群Ⅳは、コンテンツビジネスに関わる科目群である。「ビジネスモデル研究A・B・C」では、コンテンツビジネス分野を体系的に学び、「ビジネスセミナーA・B・C」では、コンテンツビジネスの仕組みを実践的に学ぶ。エンタテインメントビジネスに関連する「キャスティングマネジメント」などの関連科目も配置している。

（５）専門科目群Ⅴ（サウンド）

専門科目群Ⅴは、音声とサウンドに関わる科目群である。メディア概論やメディア基礎実習でサウンド領域の基礎概念と技術を学んでいることを前提に、「サウンド表現論」や「音楽研究Ⅰ・Ⅱ」では、音楽理論や専門知識の理解を深め、「サウンドデザインⅠ・Ⅱ」「デジタルレコーディングⅠ・Ⅱ」では、音の収集、サウンドコンテンツ制作、サウンド配信、音データベースについて習得していく。

（６）専門科目群Ⅵ（演習・プロジェクト）

専門科目群Ⅵは、演習や作品制作・研究に関わる科目群である。

「映像制作A・B・C・D」では、東金キャンパスのＴＶスタジオ、紀尾井町キャンパスの多目的スタジオや、産学連携の日活撮影所の施設を利用して、作品制作を主に行ない、映像制作現場で必要とされている専門的能力を習得する。

「制作演習A・B・C・D」では、１年次より学習してきた幅広い専門知識を活かし、より高度な専門分野の研究、コンテンツ制作を実践的、総合的に学ぶ。

「キャリアデザインA・B・C」では、就職活動へのガイダンスからはじまり、キャリアプランの作成、学生個々のキャリアパスに基づく現場実習を体験し、就職へ向けた総合力を養成する。

「インターンシップ」は、実践教育の一環として、メディア情報関連企業、地方公共団体、各種文化施設、ＮＰＯなどの非営利団体における企業研修、地域研究、イベント参加などの学習をはじめ、国内・海外でのメディア情報インターンシップ研修を行なう。大学で学習した専門知識を活かしながら、実務経験を蓄積し、ビジネス現場で必要とされている能力を自分自身の目で理解し、感じ取ることをねらいとしている。

「メディアプロジェクト」は、大学内での講義と実習授業だけでなく、コンテンツ制作やイベント制作の現場でプロフェッショナルとの協働を通して、あるいは、地域社会と連携したフィールドワークに参加することで、学生自らが問題解決能力を高め、価値の創造をめざすことを目的としている。

「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は、３、４年次の必修科目であり、各専門領域のプロジェクト研究の中から、自分の将来の職業を視野に入れ、所属するプロジェクトをひとつ選択し、各自の研究テーマをより深く追求し、Ⅱ（４年次）では、４年間の学びの集大成として、卒業制作、卒業論文に取り組む。「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は「テーマ別複合メディアプロジェクト」「専門領域別複合メディアプロジェクト」からなる。

＜テーマ別複合メディアプロジェクト＞

地域の文化、環境、行政、経済、教育、医療、福祉などの具体的な課題を取り上げて、情報とメディアの活用による問題解決と価値の創造をめざしていく。

＜専門領域複合メディアプロジェクト＞

映像制作、身体表現、ビジュアルコミュニケーションデザイン、サウンドデザイン、地理情報、モバイル・ブロードバンドなどの専門領域に特化したプロジェクト活動を行うことにより、各専門領域を深く学んでいく。学生自らがプロジェクトにおける諸問題を認識し、問題の解決方法を見つけ出すことで、プロジェクトにおける諸問題を認識し、問題の解決方法を見つけ出す。

３.Global College 科目群について

英語で国際教養を学ぶプログラム科目群で、文化、歴史、文学、政治･経済、外交など、多角的に学び幅広い視点や考え方を学びます。

2013･2014年度入学生の修得単位の目安

○１ 年 生 修 了 時・・・・・・・　３８単位
○２ 年 生 修 了 時・・・・・・・　７８単位
○３ 年 生 修 了 時・・・・・・・　１１２単位
○卒 業 単 位 数・・・・・・・　１２６単位

授 業 科 目 に つ い て

１． 学科共通科目群

学科共通科目群は，同Ⅰ（外国語・日本語），同Ⅱ（総合科目群）,同Ⅲ（基礎科目群）の３つの科目群からなる。それらの各系列のうちから所定の単位以上を修得しなければならない。

（２） 学科共通科目群Ⅰ（外国語・日本語）

学科共通科目群Ⅰでは、英語によるコミュニケーション能力と日本語文章力の向上をはかる科目群である。第一外国語として英語を学ぶ。うち，Fundamentals of EnglishⅠ、Oral FluencyⅠは必修科目である。

（２）学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）

学科共通科目群Ⅱは，情報、社会、経済、文化に関する問題解決に資する総合的知識について学ぶ科目群である。

（３）学科共通科目群Ⅲ

学科共通科目群Ⅲは、学科の専門領域教育への円滑な導入を図るための情報メディアリテラシー能力の養成と、メディア関連領域の基本的は概念、及び基礎技術を学習する科目を配置している。

２． 専門科目群

専門科目群は、ⅠからⅥの６群より構成されている。「クロスメディア」「映像表現」「身体表現」「コンテンツビジネス」「サウンド」「演習・プロジェクト」これらの科目群は、それぞれの専門領域に関する専門知識と実践能力の養成を目的とし、加えてそれらを取り巻く社会と文化、及びメディア情報環境への理解を深めることになる。

Ⅰ群はクロスメディアコース、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ群は、映像芸術コース、Ⅴ、Ⅵ群は、クロスメディアコースと映像芸術コースの共通科目群である。

（１）専門科目群Ⅰ（クロスメディア）

専門科目群Ⅰは、クロスメディアに関わる科目群である。1年次の「メディア概論」「メディア基礎実習」を通して、多様なメディアに関する基本概念や基礎技術を学んだ後、主として2年次より「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」「広告」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するための科目を配置している。

「情報」分野では、「データベース」「プログラミング」「Webプログラミング」「データ構造とアルゴリズム論」「マルチメディアコンテンツ論」「ゲーム制作」を配置している。

「映像」分野では、「スタジオ番組Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

「デザイン」分野では、「表現基礎論」「グラフィックデザイン」「イラストレーション」「立体構成」「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」「生活文化デザイン」「パブリッシングデザインⅠ・Ⅱ」「ヴィジュアルデザイン」「編集出版」を配置している。

「サウンド」分野では、「デジタル音楽表現」「デジタルサウンド」を配置している。

「広告」分野では、「CM制作論Ⅰ・Ⅱ」「広告コピー論」「広告戦略論」「ブランドマネジメント

論」を配置している。「クロスメディア」を学習する学生は、学科共通科目群Ⅲの「デッサンⅠ・Ⅱ」「WebデザインⅠ・Ⅱ」「モバイルメディア」などを併せて履修し、メディアの基礎能力を高めるこ とを推奨する。

上記のように複数のメディア分野の科目が用意されており、学生は自分の将来の進路や志望する職業にあわせて横断的に科目履修を行い、複合的なメディア能力の獲得をめざすことを期待する。

(２)専門科目群Ⅱ（映像表現）

専門科目群Ⅱは、映画やテレビ、Web映像などの映像コンテンツと映像文化に関わる科目群である。1年次のメディア概論、基礎実習を通して、映像に関する基本概念や基礎技術を学んだ後、2年次より「演出・制作」「映像技術」「映像美術」「アニメーション・CG」の各分野に必要な幅広い知識と専門技術を習得するために、「シナリオライティング」「映像演出」「映像プロデュース」「番組企画・構成」「映像撮影照明」「デジタル映像編集」「映像録音」「音響効果」「映像美術デザインⅠ・Ⅱ」「アニメーションⅠ・Ⅱ」「CG映像Ⅰ・Ⅱ」を配置している。映画研究、特殊メイク、コミック制作の分野にも科目を配置している。

（３）専門科目群Ⅲ（身体表現）

専門科目群Ⅲは、身体表現と舞台空間に関わる科目群である。1年次前期の身体表現概論で身体表現に関する基本概論を学んだ後、1年次後期より「音声表現AⅠ・Ⅱ（ヴォーカル）」「音声表現BⅠ・Ⅱ（声優）」「音声表現CⅠ・Ⅱ（アナウンス）」「サウンド表現Ⅰ・Ⅱ（演奏）」「身体表現AⅠ・Ⅱ（ダンス）」「身体表現BⅠ・Ⅱ（アクティング）」の実習を通し、身体表現の基礎能力を養い「演劇制作Ⅰ・Ⅱ」では、舞台空間と演技について、総合的、実践的に学習する。

「舞台空間Ⅰ・Ⅱ」では、舞台音響、舞台照明、舞台美術をはじめとする、舞台表現のスタッフワークについて幅広い知識と専門的技術を学ぶ。舞台芸術に関わる科目として「舞台空間概論」「戯曲研究」「古典芸能研究」「芸能演劇研究Ⅰ・Ⅱ」を配置している。

（４）専門科目群Ⅳ（コンテンツビジネス）

専門科目群Ⅳは、コンテンツビジネスに関わる科目群である。「ビジネスモデル研究A・B・C」では、コンテンツビジネス分野を体系的に学び、「ビジネスセミナーA・B・C」では、コンテンツビジネスの仕組みを実践的に学ぶ。エンタテインメントビジネスに関連する「セルフプランニング」「キャスティングマネジメント」「権利マネジメント」などの関連科目も配置している。

（５）専門科目群Ⅴ（サウンド）

専門科目群Ⅴは、音声とサウンドに関わる科目群である。メディア概論やメディア基礎実習でサウンド領域の基礎概念と技術を学んでいることを前提に、「サウンド表現論」や「音楽研究Ⅰ・Ⅱ」では、音楽理論や専門知識の理解を深め、「サウンドデザインⅠ・Ⅱ」「デジタルレコーディングⅠ・Ⅱ」では、音の収集、サウンドコンテンツ制作、サウンド配信、音データベースについて習得していく。

（６）専門科目群Ⅵ（演習・プロジェクト）

専門科目群Ⅵは、演習や作品制作・研究に関わる科目群である。

基礎ゼミⅠ・Ⅱは、学生生活の導入科目としての役割を持つ。1年次において円滑に学生生活に入るための基礎知識や、将来の職業を視野に入れたキャリアパス設計のために幅広い知識を学んでいく。

「映像制作A・B・C・D」では、東金キャンパスのTVスタジオ、紀尾井町キャンパスの多目的スタジオや、産学連携の日活撮影所の施設を利用して、作品制作を主に行ない、映像制作現場で必要とされている専門的能力を習得する。

「制作演習A・B・C・D」では、１年次より学習してきた幅広い専門知識を活かし、より高度な専門分野の研究、コンテンツ制作を実践的、総合的に学ぶ。

「キャリアデザインA・B・C」では、就職活動へのガイダンスからはじまり、キャリアプランの作成、学生個々のキャリアパスに基づく現場実習を体験し、就職へ向けた総合力を養成する。

「インターンシップ」は、実践教育の一環として、メディア情報関連企業、地方公共団体、各種文化施設、NPOなどの非営利団体における企業研修、地域研究、イベント参加などの学習をはじめ、

国内・海外でのメディア情報インターンシップ研修を行なう。大学で学習した専門知識を活かしながら、実務経験を蓄積し、ビジネス現場で必要とされている能力を自分自身の目で理解し、感じ取ることをねらいとしている。

「メディアプロジェクト」は、大学内での講義と実習授業だけでなく、コンテンツ制作やイベント制作の現場でプロフェッショナルとの協働を通して、あるいは、地域社会と連携したフィールドワークに参加することで、学生自らが問題解決能力を高め、価値の創造をめざすことを目的としている。

「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は、3、4年次の必修科目であり、各専門領域のプロジェクト研究の中から、自分の将来の職業を視野に入れ、所属するプロジェクトをひとつ選択し、各自の研究テーマをより深く追求し、Ⅱ（4年次）では、4年間の学びの集大成として、卒業制作、卒業論文に取り組む。「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は「テーマ別複合メディアプロジェクト」「専門領域別複合メディアプロジェクト」からなる。

＜テーマ別複合メディアプロジェクト＞地域の文化、環境、行政、経済、教育、医療、福祉などの具体的な課題を取り上げて、情報とメディアの活用による問題解決と価値の創造をめざしていく。

＜専門領域複合メディアプロジェクト＞
映像制作、身体表現、ビジュアルコミュニケーションデザイン、サウンドデザイン、地理情報、モバイル・ブロードバンドなどの専門領域に特化したプロジェクト活動を行うことにより、各専門領域を深く学んでいく。学生自らがプロジェクトにおける諸問題を認識し、問題の解決方法を見つけ出すことで、プロジェクトにおける諸問題を認識し、問題の解決方法を見つけ出す。

2012 年度入学生の修得単位の目安

○１ 年 生 修 了 時・・・・・・・	３８単位
○２ 年 生 修 了 時・・・・・・・	７８単位
○３ 年 生 修 了 時・・・・・・・	１１２単位
○卒 業 単 位 数・・・・・・・	１２６単位

授業科目について

１． 学科共通科目群

学科共通科目群は，同Ⅰ（英語・日本語），同Ⅱ（総合科目群）の２つの科目群からなる。それらの各系列のうちから所定の単位以上を修得しなければならない。

（３） 学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）

学科共通科目群Ⅰでは、英語によるコミュニケーション能力と日本語文章力の向上をはかる科目群である。第一外国語として英語を学ぶ。うち，Fundamentals of English Ⅰ、Oral FluencyⅠは必修科目である。

（２）学科共通科目群Ⅱ（総合科目群）

学科共通科目群Ⅱは，社会、経済、文化に関する問題解決に資する総合的知識について学ぶ科目群である。

２． 専門基礎科目群

専門基礎科目群は、学科の専門領域教育への円滑な導入を図るための情報メディアリテラシー能力の養成と、メディア関連領域の基礎知識と基礎的な方法論を学習する科目を配置している。

「メディア制作Ⅰ・Ⅱ」（１・２年次）は、学生生活の導入科目としての役割を持つ。キャリア・アンカー（職業上の自分のイメージ）の確立と形成のために、具体的な「学習計画」と「キャリアプラン」を作成していく。

３． 専門科目群

専門科目群は、ⅠからⅥの６群により構成されている。「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」「広告」「芸能」の６つのメディア専門領域に焦点を当てている。それらに関する専門知識と実践能力の養成を目的とし、加えてそれらを取り巻く社会と文化、及びメディア情報環境への理解を深めることになる。

前述の６つのメディア学習領域には、それぞれの根幹となる科目を、コア科目として配置している。コア科目授業は講義科目授業とそれに適合する実習科目授業を統合し、専門知識と対応する技術と方法を同時学習することにより、総合的、実践的な教育効果を高めるように配置されている。

（１） 専門科目群Ⅰ（情報コア）

専門科目群Ⅰは、情報に関する専門知識とスキルコアを学ぶ科目群であり、「データベースⅠ・Ⅱ」「プログラミングⅠ・Ⅱ」を専門コア科目として配置している。そして、データ構造とアルゴリズム論、情報環境の情報の基礎を学ぶとともに、地理情報のような最新の科目も展開されている。

（２） 専門科目群Ⅱ（映像コア）

専門科目群Ⅱは、映画やテレビなどの、映像制作と映像文化に関わる科目群である。映像制作の基本概念を理解する科目として「演出制作概論」「シナリオ概論」「映像技術概論」「映像美術概論」があり、１年次後期と２年次前期には、演出制作、映像技術、映像美術の各分野について幅広い知識と技術を習得する科目を学ぶ。２年次後期から日活撮影所で実施する「映画制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、東金キャンパスで２年次から実施する「スタジオ番組Ⅰ・Ⅱ」を専門コア科目として配置している。映画研究、特殊メイク、アニメーションの分野にも科目を配置している。

（３） 専門科目群Ⅲ（デザインコア）

専門科目群Ⅲは、デザインに関わる科目群である。「デザイン基礎実習」でデザインの基礎を学習する。専門コア科目として「生活文化デザイン」「デジタルデザインⅠ・Ⅱ」「パブリッシングデザインⅠ・Ⅱ」が配置されており、専門知識とスキルを学習していく。「生活文化デザイン」では、日常生活のなかで機能し、地域社会と協働し貢献できるデザイン能力と実践力を養う。「パブリッシングデザインⅠ・Ⅱ」では、印刷と出版に関わるデザイン能力を養う。

（４） 専門科目群Ⅳ（サウンドコア）

専門科目群Ⅳは、音声とサウンドに関わる科目群である。「サウンドデザイン基礎実習」「サウンド表現論」でサウンド領域に関する基礎能力を養い、「映像音響技法」では、映像制作に関連する音声制作理論とスキルを学習する。この科目群の専門コア科目である「サウンドデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ」「デジタルレコーディングⅠ・Ⅱ」「デジタルサウンドⅠ・Ⅱ」「デジタル音楽表現Ⅰ・Ⅱ」では、音の収集・サウンドコンテンツ制作、サウンド配信、音データベースについて習得していく。

（５） 専門科目群Ⅴ（広告）

専門科目群Ⅴは、広告に関わる科目群であり、「ＣＭ制作論Ⅰ・Ⅱ」を専門コア科目として配置している。具体的な問題解決のために、どのように「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」の４つのメディアを統合し、複合メディアとして展開すべきかについて学習していく。

（６）専門科目群Ⅵ（芸能）

専門科目群Ⅵは、身体表現とエンタテインメントビジネスに関わる科目群である。「ヴォーカルⅠ・Ⅱ」「演奏Ⅰ・Ⅱ」「アナウンスⅠ・Ⅱ」「アクティングⅠ・Ⅱ」「ダンスフィットネスⅠ・Ⅱ」では身体表現の基礎能力を養い、「演劇制作Ⅰ・Ⅱ」では演劇と演技について総合的、実践的に学習する。エンタテイメントビジネスに関わる科目を配置し、マネジメント、キャスティング、プロモーション、著作権などの幅広い分野について学ぶ。

（７）専門科目群Ⅶ（演習・インターンシップ）

「インターンシップ」は、実践教育の一環として、メディア情報関連企業、地方公共団体、各種文化施設、ＮＰＯなどの非営利団体における企業研修、地域研究、イベント参加などの学習をはじめ、国内・海外でのメディア情報インターンシップ研修を行う。大学で勉強した専門知識を活かしながら、実務経験を蓄積し、ビジネスの現場で必要とされている能力を自分自身の目で理解し、感じ取ることをねらいとしている。

「制作演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、大学で勉強した幅ひろい専門知識を活かし、コンテンツ制作の現場との協働によって映画や演劇、コンサートなどのコンテンツ制作プロジェクトの実際を実践的、総合的に学ぶ。２年次後期からの日活撮影所では「映画制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」と連動して、映画制作プロジェクトを経験し、映像制作現場で必要とされる専門的な能力を理解する。紀尾井町キャンパスでは、演劇公演や朗読会、音楽ライブ、コンサートなどのライブプロジェクトを運営しながら、エンタテインメント業界における諸問題を認識し、問題解決の価値の創造を目指していく。

「メディアプロジェクト」は、大学内での講義と実習授業だけでなく、地域社会から学ぶフィールドワークによって、地域社会における諸問題の認識とその解決方法を発見し、分析し、解決能力を養成することを目的とし、「情報」「映像」「デザイン」「サウンド」「広告」「芸能」の６つのメディアをどのように統合して、問題解決と価値創造のためにどのように複合メディアとして展開していくかを実践的に学んでいく。

「プロジェクト研究Ⅰ・Ⅱ」は、３・４年次の必修科目であり、「テーマ別複合メディアプロジェクト」と「専門領域別複合メディアプロジェクト」からなる。

<テーマ別複合メディアプロジェクト>

地域の文化、環境、行政、経済、教育、医療、福祉などの具体的な課題を取り上げて、情報とメディアの活用による問題解決と価値の創造をめざしていく。

<専門領域複合メディアプロジェクト>

映像制作、ビジュアルコミュニケーションデザイン、サウンドデザイン、地理情報、モバイルブロードバンドなどの専門領域により特化したプロジェクト活動を行うことにより、各専門領域をより深く学んでいく。

Global College 科目群

Josai Global College では、学生のみなさんが学びたい科目を英語で学ぶことができます。また、本学の学生は誰でも好きな科目を履修することが可能です。Josai Global College は、日本に居ながら英語で多様な知識と教養を身につけることができる、革新的な学びの場を提供します。

城西国際大学は、その名にふさわしく、あらゆる学生に国際的な環境を提供しています。学生は日本だけではなく、本学の提携大学があるカナダ、中国、チェコ、フィンランド、フランス、ドイツ、韓国、ハンガリー、ノルウェー、ポーランド、スペイン、アメリカなど、世界中から集まっています。このような国際的な環境の中で、学習者は互いに高め合い、国際感覚を身につけることができるようになっています。

また、本学ではクラスの中だけではなく、クラスの外でも教員と学生が日常的に交流しながら学ぶという、大変親しみやすい環境を作り上げています。Josai Global College もその例外ではありません。多様な国々の人たちと研究・教育活動をともにすることで視野を広め、国際的なバランス感覚を養うことができます。

東京紀尾井町キャンパス開講科目を受講する学生を対象に東金キャンパスから特別に往復のシャトルバスを運行、安房キャンパスへはサテライト配信をしますので観光学部の学生も履修可能です。

2015 年度開講科目

科目名	開講キャンパス
Introduction to Japanese Literature	紀尾井町
Japanese Literature in Translation a	紀尾井町
Japanese Literature in Translation b	紀尾井町
Modern American Literature	紀尾井町
Japanese Art and Literature	東金
Samurai Tradition in Edo Culture	紀尾井町
Haiku in the World	紀尾井町
Kamishibai as a Medium of Entertainment, Education, and Propaganda	紀尾井町
Japanese Art & Museum Management	紀尾井町
Tradition in Contemporary Japan	紀尾井町
Theory of Acculturation: Minorities in Japan	東金
Japan and Asia	紀尾井町
ASEAN and Japan a	紀尾井町
ASEAN and Japan b	紀尾井町
ASEAN and Japan c	紀尾井町
Europe and Japan a	紀尾井町
Europe and Japan b	東金
Europe and Japan c	紀尾井町
European Art a	紀尾井町
European Art b	紀尾井町
European Art c	紀尾井町
Cinema Studies	紀尾井町
Japanese Film and Visual Art	紀尾井町
Japan-U.S. Film Comparative Research	紀尾井町
Representations of France in Films	紀尾井町
Representations of Paris in Films	紀尾井町
Film Industry in Hollywood	紀尾井町
Reading Comics in English	紀尾井町
Animation	紀尾井町
Sound Design	紀尾井町
World Civilization	紀尾井町
Globalization and Multiculturalism	紀尾井町
Gender and Culture	紀尾井町
Gender and Language	紀尾井町
Women in Asia	東金

科目名	開講キャンパス
Modernism in Architecture	紀尾井町
The Cityscape Worldwide	紀尾井町
Business and Society	紀尾井町
Global Logistics	紀尾井町
International Finance	紀尾井町
International Marketing	紀尾井町
Introduction to Database Theory	紀尾井町
Introduction to Global Management	紀尾井町
Strategic Management	紀尾井町
Introduction to Tourism	安房
International Tourism Special Session	安房
Asia Tourism Studies	安房
Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue	紀尾井町
Introduction to Social and Environmental Studies	東金
Ecology Policy	東金
Environmental Issues & Technology	紀尾井町
Introduction to Health Science	東金
Safety of Food and Environmental Chemicals	東金
Japanese to English Translation	紀尾井町
International Administration Ⅰ (Fundamentals of Management)	紀尾井町
International Administration Ⅱ (International Understanding)	紀尾井町
International Administration Ⅲ (Fundamentals of Thesis Writing)	紀尾井町
International Administration Ⅳ（Social Research,Design,Evaluation）	紀尾井町
Policy Studies Ⅴ（NGO/NPO Policy）	紀尾井町
International Studies Ⅰ (International Organizations)	紀尾井町
International Studies Ⅵ (International Economics)	紀尾井町
Corporate Studies Ⅳ（Corporate Governance）	紀尾井町
Tourism Ⅲ（Hospitality Management）	紀尾井町
Tourism Ⅶ(International Development Policy)	紀尾井町
Case Studies Ⅴ（Development of Tourism Sites）	紀尾井町
Japanese-English Translation Ⅰ:Culture	紀尾井町
English Language Structure Analysis	紀尾井町
Foundations of English Language Teaching	紀尾井町
Curriculum and Materials Design Ⅰ	紀尾井町
Curriculum and Materials Design Ⅱ	紀尾井町

リベラルアーツ＆サイエンス科目群

リベラルアーツ＆サイエンス（ＬＡＳ）センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げています。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部･学科ですでに開講している科目を“ 人格形成領域 ”“ 一般教養領域 ”“ 基礎能力領域 ”という３領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ＆サイエンス科目群」として特別に提示しています。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」
「社会とジェンダー」という５テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」
という４テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」
という４テーマ

に分けてまとめてあります。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマです。

これらに加えて、ＬＡＳセンターが特に力を入れたい分野･テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定します。ＬＡＳセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて１～４年次のいずれかで履修することができます。

「リベラルアーツ＆サイエンス科目群」を履修して修得した単位は、３０単位を限度として申請により、学部･学科の各科目群に振り替えることができます。「リベラルアーツ＆サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業に係わる相談等は、ＬＡＳセンターにて随時受け付けています。